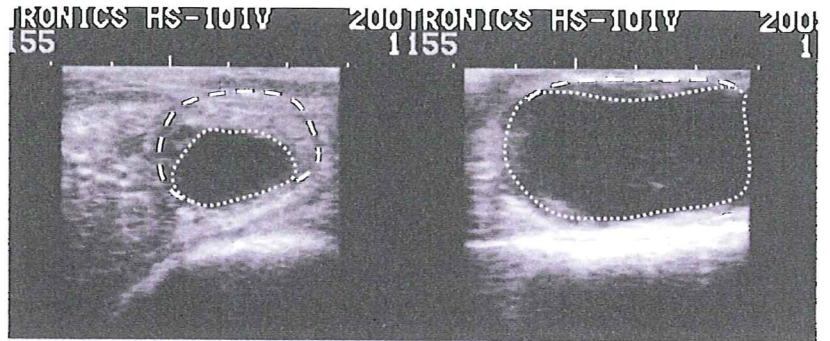


# のう腫があっても 発情兆候があれば授精する

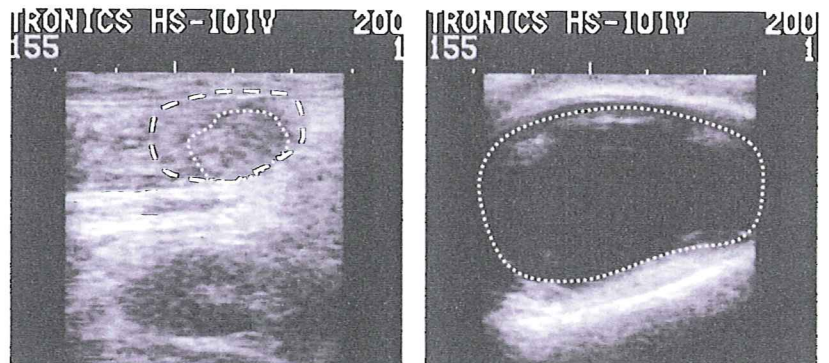
「発情兆候があったので授精師を呼んだけど、のう腫があるといわれて授精してもらえなかった・・・」よくある農家からの相談です。多くのケースがその後獣医師によってGnRH製剤(コンセラー)を注射されてしばらく様子見というパターンでしょう。

**1日目** 発情兆候を示す牛を授精師さんにみせたところ「のう腫なので授精はしません」とのこと。エコーで確認すると右卵巢に確かにのう腫が……。でも左卵巢には良い卵胞があります！そのうえ子宮の収縮も強く、発情に違いないと判断。そこでその日のうちに再度授精師さん呼び、お願いして授精してもらいました。



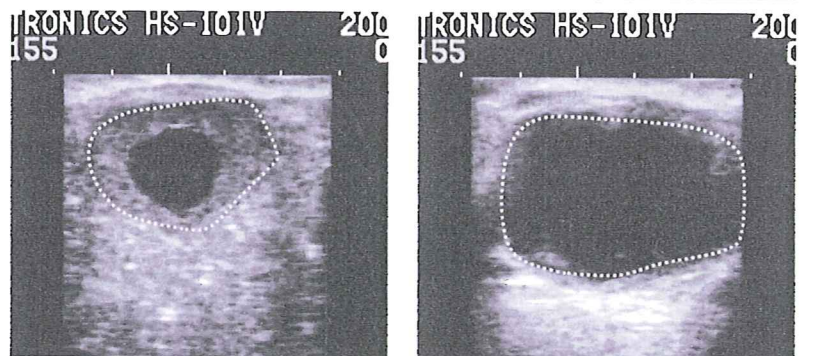
写真右:直径4cmほどのう腫様構造物がある(……………で囲まれた部分)  
写真左:卵巢に直径2cmほどの卵胞がある (- - - は卵巢実質)

**2日目** 翌日その牛をエコーで見たところ左にあった卵胞はみごとに排卵していました。右側ののう腫はそのままです。通常は排卵した跡から黄体(妊娠黄体)ができてくる筈です。



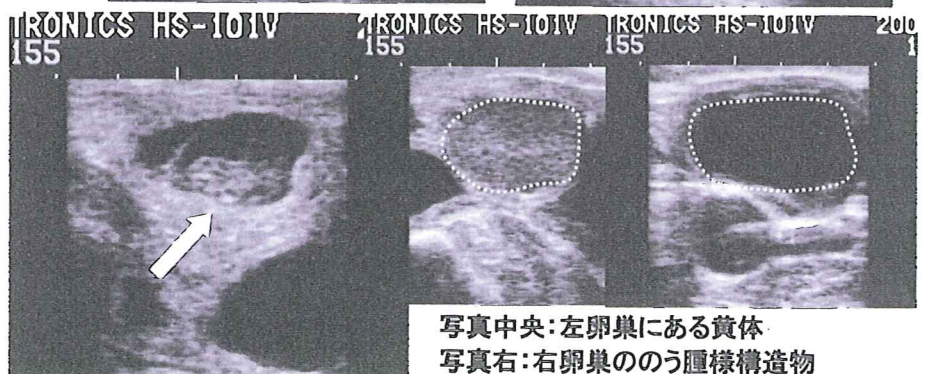
写真右:のう腫様構造物はそのまま  
写真左:昨日の卵胞はなく排卵した跡がみえる(……………で囲まれた部分)

**8日目** 排卵した左卵巢に黄体ができています(……………で囲まれた部分。形成初期の黄体には中腔があることが多い)。右卵巢ののう腫はそのまま残っていますが、排卵や黄体の形成に……………対してまったく害をなしていないことが分



## 41日目

みごと妊娠しました！  
(矢印が41日目の胎子)  
右の卵巢にはまだのう腫が……  
結構しつこいですね(笑)。



写真中央:左卵巢にある黄体  
写真右:右卵巢ののう腫様構造物

のう腫でも発情兆候があれば卵巢のどこかに正常な卵胞があることが多いので、のう腫に惑わされず必ず授精するようにしましょう。